

⑧2024年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画) →2024年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
1.アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。 1)2025年度秋入学を実施する。 2)長期履修制度を導入する。 3)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。 4)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募る。 5)オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う。 6)各職域の学会や研修会等でアピールする。	
2.カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。 1)科目シラバスとディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成を保证する。 2)オンラインシステムと対面授業の双方の環境を維持し、授業内容を充実させる。 3)多様な学修動機・目的に応える。 4)適正な教員組織の維持を図る。 5)GCIとの連携を図る。	

DO(実施)	
D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)
1)制度上2025年度秋入学が可能なように入試を整備を実施した。 2)制度上長期履修が可能なようを規程改定を行った。 3)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促した 4)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募った。 5)オープンキャンパスについては、学部の募集に限定していると言っており、実施がかなわなかった。 6)各職域の学会や研修会等でアピールした。本学大学院には日本作業療法士協会専門作業療法士養成研修における単位互換制度があることを目立つページに置き、連携科目対応表をアップした。(日本作業療法士協会HPにも掲載済み)学生募集のリーフレットを各学科で常時配置、オープンキャンパスで配布し、研究成果(学会表彰者等)をホームページにアップした。	5)以外実施した
1)科目シラバスと新ディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成にした。2025年度に向けてIチーム医療医療倫理特論の内容について、研究法および量的研究室的な研究法について基本的な研究方法を学べるよう授業内容を再編した。 2)科目teamsを用いて授業情報の通知、オンライン授業と課題設定を活用した。 3)理学療法士、作業療法士指定規則に則り、大学院で教育学関連2科目を履修することで、養成校の教員となる際の要件を満たすことができるが、その要望に答える形で、2025年度開講する科目について準備を行った。 4)2025年度から1名の講義担当教員、2026年度から2名の特別研究指導を行う教員を追加した。(院生募集の関係から2026年度開始となる)教員増は学修や研究指導の活性化に繋がった。 5)学部の海外短期フィールドワーク(北米)およびGSIと連携し、大学院生1名が参加した。	

CHECK(評価)	
C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	評価の理由/課題/根拠データ等
1)制度上2025年度秋入学が可能なように入試を整備を実施した。 2)制度上長期履修が可能なようを規程改定を行った。 3)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促した 4)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募った。 5)オープンキャンパスについては、学部の募集に限定していると言っており、実施がかなわなかった。 6)各職域の学会や研修会等でアピールした。専門作業療法士(摂食嚥下)取得を目的とした新入生が1名あった。	応募者数 15名、合格者 15名、入学者数 14名、科目等履修生 1名
1)科目シラバスと新ディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成にした。2025年度に向けて「Iチーム医療医療倫理学特論」の内容について、研究法および量的研究室的な研究法について基本的な研究方法を学べるよう授業内容を再編した。 2)科目teamsを用いて授業情報の通知、オンライン授業と課題設定を活用した。社会人大学院生については、利便性が大きい。必要に応じて、効率的に活用すること 3)理学療法士、作業療法士指定規則に則り、大学院で教育学関連2科目を履修することで、養成校の教員となる際の要件を満たすことができるが、その要望に答える形で、2025年度開講する科目について準備を行った。 4)2025年度から1名の講義担当教員、2026年度から2名の特別研究指導を行う教員を追加した。(院生募集の関係から2026年度開始となる)教員増は学修や研究指導の活性化に繋がった。 5)学部の海外短期フィールドワーク(北米)およびGSIと連携し、大学院生1名が参加した。	授業評価前期平均4.59、後期4.50で、目標の4.90だった。アンケート回収率は前期45.0%、後期50.5%

ACITON(次への改善)	
A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
1)制度上2025年度秋入学が可能なように入試を整備を実施したので、希望する受験者がいければ秋入学をおこなう。 2)制度上長期履修が可能なようを規程改定を行った。 3)今後も学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す 4) オンライン個別相談・説明会を実施し、応募者を募る機会を設定する。 5) オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う方法を模索する 6) 各職域の学会や研修会等でアピールする。	引き続き、社会人入学者を増やす。他研究科や他大学の状況から、2025年度に行われる社会人に対する入試については、研究計画を含む書類審査及び面接試験に変更した。(ストレートマスターについては変更なし) 1)制度上2025年度秋入学が可能なように入試を整備を実施したので、希望する受験者がいければ秋入学をおこなう。 2)制度上長期履修が可能なようを規程改定を行った。 3) 今後も学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す 4) オンライン個別相談・説明会を実施し、応募者を募る機会を設定する。 5) オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う方法を模索する 6) 各職域の学会や研修会等でアピールする。
1)科目シラバスと新ディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成となっているかどうかを継続的に点検する。 2)オンラインシステムと対面授業の連携を、授業内容や授業方法によって選択肢、院生の学修にとって最良の方法となるよう、工夫をしていく。 3)教育学関連2科目を2025年度に開講する 4)適正な教員組織の維持を図る 5)今後もGSIとの連携を図る。	

⑧2025年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画) →2025年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
1.アドミッション: 1)定員20人の確保を目指す(KPI)。 2)秋入学および長期履修制度導入済みである。また、社会人受験生に対しては、より受験しやすいように入試科目を変更した。このことを含めて社会人が履修しやすい環境であることをアピールする 3)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。 4)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募る。 5)オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う。 6)各職域の学会や研修会等でアピールする。	
2.カリキュラム: 1)授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。 2)科目シラバスとディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成を保证する。 3)オンラインシステムと対面授業の双方を有効に利用し、授業内容を充実させる。 4)多様な学修動機・目的に応える。 5)適正な教員組織の維持を図る。 6)GCIとの連携を図る。	

<p>3. アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.4以上(KPI)を目標とする。</p> <p>1)英語力を上げる。</p> <p>2)論文作成に関する指導を充実させる。</p>	<p>1)院生が1名が海外研究発表英語研修を受講した</p> <p>2)「Iチーム医療医療倫理学特論」の中で研究倫理・計画に関する授業を行った。</p>		<p>学修ルーブリックでの自己評価平均が3.49で、目標の3.3以上を達成した。入学時よりも1.5以上上昇したものは、計画立案、倫理申請、1.0以上上昇したものは専門知識、研究方法、統計処理で</p> <p>2)「Iチーム医療医療倫理学特論」の中で研究倫理・計画に関する授業を行った。</p>	<p>2024年度修了生17名の学修ルーブリック自己評価平均3.49</p>	<p>1)英語を使う機会を増やし、学生が自信を持てるように、ランゲージサロンの利用を促進する。</p> <p>2)特別研究だけでなく、特論・演習・実験科目の中でも論文作成に関わるスキル獲得を計画的に推進する。2025年度からは「Iチーム医療医療倫理学特論」について、研究法および量的研究室的な研究療法について基本的な研</p>	<p>7)履修証明プログラム実施に向けて、具体的な準備を開始する</p> <p>3. アセスメント:</p> <p>1)学修ルーブリックでの自己評価3.4以上(KPI)を目標とする。</p> <p>2)英語での学会発表を推進する</p> <p>3)論文作成に関する指導を充実させる。</p>
<p>4. 研究:大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数17と同じ17件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。</p> <p>1)研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。</p> <p>2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。</p> <p>3)人を対象とする研究において、倫理審査申請書の適切な作成を指導する。</p>	<p>1)研究発表をホームページで公開することとし、発表を奨励した。学会表彰者をホームページで紹介した。</p> <p>2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設けることとした。</p> <p>3)倫理審査申請件数は14件(14件承認)。</p>		<p>論文投稿:4件(筆頭筆者、査読あり:英語論文1件、学会誌1件、共同筆者:3件)、本学紀要:2件(筆頭筆者、査読あり:1件、共同筆者:1件)、<M1>学会発表:国際学会8件、1)研究発表をホームページに公開することとし、発表を奨励した。学会表彰者をホームページで紹介した。</p> <p>2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設けた。</p> <p>3)倫理審査申請件数は14件承認され、研究が開始された。</p>		<p>研究:大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数(1名休学)17と同じ17件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。</p> <p>1)研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。</p> <p>2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。</p> <p>3)人を対象とする研究において、倫理審査申請書の適切な作成を指導する。</p>	<p>4. 研究:</p> <p>1)大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数18(休学者1名のため17名)と同じ17件とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。(研究KPI)</p> <p>2)研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。</p> <p>3)中間発表会・修士論文最終試験(研究発表時)に2分野合同で開催することにより、広い研究領域を学び、大学院生同士で情報交換する場を設ける。</p> <p>4)人を対象とする研究において、倫理審査申請書の適切な作成を指導する。</p>
<p>5. ディプロマ:2023年度入学者17名に対する修了者100%(KPI)を目標とする。</p> <p>1)研究計画立案の力をつける。</p> <p>2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。</p> <p>3)修士論文提出時の完成度が研究科内で見えるようにする。</p>	<p>1)各指導教員の元実施した。</p> <p>2)各ゼミの中で情報共有を実施した。</p> <p>3)各指導教員の元実施した。</p>		<p>1)各指導教員の元実施した。</p> <p>2)各ゼミの中で情報共有を実施した。</p> <p>3)各指導教員の元実施した。</p>		<p>1)各指導教員の元実施した。2025年度からは、「Iチーム医療医療倫理学特論」において、研究法および量的研究室的な研究療法について基本的な研究方法を学べるよう授業内容を再編した。</p> <p>2)各ゼミの中で情報共有を実施する。</p> <p>3)今後も閲覧を可能とする</p>	<p>5. ディプロマ:</p> <p>1)2024年度入学者17名(18名中1名休学中)に対する修了者100%を目標とする。(KPI)</p> <p>2)研究計画立案の力をつける。</p>
<p>6. B's Vision 2024に向けての取り組み</p> <p>1)国際化に対応した地球市民の育成対話力をつける。</p> <p>2)ストレス耐性を持った人材の育成研究発表に向けて協働する。</p> <p>3)永久サポート大学修了生との対話の場を設ける。</p> <p>4)教育力日本一議論を深める機会を設ける。</p>	<p>1)修士論文の表と図を原則として英語で記述することを研究科で確認し、遂行した。海外機関との連携を模索中。</p> <p>2)学生間で研究活動を協働できるよう支援した。</p> <p>3)M1M2両方の院生に対して修士論文中間報告会・最終試験への参加を促した。各研究室・ゼミごとに在學生と修了生が交流する機会を持っており、修了後も交流を継続している。</p> <p>4)学修ルーブリックで自身の振り返りと議論を促進した。</p>		<p>1)修士論文の表と図を原則として英語で記述することを研究科で確認し、遂行した。海外機関との連携については限定的となっている。</p> <p>2)学生間で研究活動を協働できるよう支援したが、これによりストレス耐性を持った人材が育成できるかどうかは疑問が残る。</p> <p>3)M1M2両方の院生に対して修士論文中間報告会・最終試験への参加を促した。各研究室・ゼミごとに在學生と修了生が交流する機会を持っており、修了後も交流を継続することで修了生をサポートしている。</p> <p>4)授業評価においては、おおむね良好な結果となっている。</p>		<p>B'sビジョン2029に基づいて計画を立てる①地球市民を育成します</p> <p>B'sビジョン2029に基づいて計画を立てる②ストレス耐性の高い人材を育成します</p> <p>B'sビジョン2029に基づいて計画を立てる③学が喜びのある教育環境を提供します</p> <p>B'sビジョン2029に基づいて計画を立てる④生涯にわたる学びをサポートします</p>	<p>6. B's Vision 2029実現に向けての取り組み</p> <p>(1)地球市民を育成します</p> <p>(2)ストレス耐性の高い人材を育成します</p> <p>(3)学が喜びのある教育環境を提供します</p> <p>(4)生涯にわたる学びをサポートします</p>